戦国ロマン片岡城

問 問合先

4 片岡城の戦い－その2　明智光秀ら織田方の戦い－

関川尚功（上牧町教育委員会 文化財専門員）

問 社会教育課　TEL76-2532

片岡城の本丸跡

松永久秀による片岡城の占拠後も筒井順慶らの抵抗は続き、大和での松永氏の優勢にかげりが見えはじめます。そして天正5(1577)年、織田信長が大和の支配権を筒井順慶に与えたことで、これに反発した松永久秀らは信貴山城にたてこもり、信長に謀反を起こします。信長は久秀の決意が本気であることを知ると、それを一気に討つことにし、織田家を挙げた軍勢を送ることにします。総大将は信長嫡男の織田信忠で、織田の大軍が初めて大和に入ってきます。そしてまず織田家重臣の明智光秀が、細川藤孝（幽斎）父子や松永に敵対する筒井順慶らとともに攻め寄せたのが片岡城でした。二度目となるこの片岡城の戦いは、今度は織田と松永との総力戦の舞台となりました。

『信長公記』には火花を散らすほどの激しい戦いで明智光秀も粉骨の働きと記されています。しかしこの戦いで最も名を挙げたのは、片岡城に一番に乗り込み、皆も続いて片岡城の「天主」に詰め寄せたと記されている、細川藤孝嫡男でわずか十五歳の細川忠興とその弟でした。そしてこの功により忠興は織田信長からは自筆の感状が与えられ、翌天正6年に元服。

その後、信長の勧めにより明智光秀の娘である明智玉子を妻に迎え祝言を挙げました。この人が後の細川ガラシャです。片岡城の戦いが縁となり、明智光秀と細川藤孝は姻戚関係になったわけです。しかし、4年後の本能寺の変では、これらの人々の運命は大きく変わります。

片岡城の戦いに続いて、織田信忠らにより信貴山城が攻め落とされ、松永久秀は自害して滅びることになりました。その後、仏教心の篤い筒井順慶は宿敵であっても松永久秀を弔うことを忘れずにその墓を建てました。それが今でも達磨寺（王寺町）の片岡春利の墓の横に並んでいる松永久秀の墓塔であり、片岡城の二つの戦いをしのぶことができます。

片岡城で戦った明智光秀像